

普通科と農業科の連携の方向性について

資料3

1 第1期実施計画における記載内容（第1期実施計画23頁より）

普通科と農業科を併設するメリットを最大限に活用し、普通科の生徒のキャリア教育の充実や農業科の生徒の大学進学等へ向けた基礎学力の向上等に学校全体で取り組み、多様な進路志望に対応します。

2 普通科と農業科の連携

論 点

3校から提示された案をもとに、普通科と農業科の連携方策として、具体的にどのようなことが考えられるかという視点で協議する。

【普通科と農業科の連携の方向性】

【3校からの提案内容】

<p style="text-align: center;">十和田西 高校</p>	<p>○農業活動への積極的理解と参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 田植え、稲刈り等の活動について可能な限り全校行事として実施することが考えられ、体験を通して農業を理解し、将来の職業や生活に役立てることができる。 ・ 農業科における生産（1次産業）や加工（2次産業）に関する学習、普通科（観光コース等を設置）における流通やマーケティング、販売促進等（3次産業）に関する学習を相互に取り入れることにより、6次産業化の視点に立った教育活動が可能になる。 ・ 農業科及び普通科の生徒が商業に関する科目を履修することで、商業的な視点を活かした研究活動や起業について研究協力が可能となる。 <p>○農業クラブの研究活動と「総合的な探究の時間」の相互協力</p> <p>農業クラブの研究活動と普通科の「総合的な探究の時間」における取組を連携させ、英語による研究発表や、統計的な手法を取り入れた研究活動、農産品のPR、マーケティング戦略の展開等が考えられる。</p> <p>○資格取得や進学対応面での連携</p> <p>農業科の主導により、農業科の利点である職業に直結した資格取得や、農業クラブにおける研究・発表に学校全体で取り組むことや、普通科の主導により、普通科の利点である大学等への進学に向けた講習や模試及び進学指導を全校で実施することが考えられ、それぞれの強みを活かした教育活動を展開できる。</p>
<p style="text-align: center;">六戸高校</p>	<p>○「総合的な探究の時間」における地域との協働</p> <p>六戸高校で取り組んでいる「さつき沼ビオトープ化プロジェクト」のように、三本木農業高校にある広大な農地など学習環境を活用した探究型学習の展開が考えられる。普通科の教科横断的な学習が容易になり、農業という自然のサイクルに従ったものの見方・考え方を加えた「探究」的なものをもたらす。</p> <p>○学校行事における普通科・農業科連携</p> <p>田植えや稲刈りなどの行事への参加が考えられる。</p>

三本木農業
高校

○全校田植えの開催

今年で49回を数えた全校田植えは、ここ数年他校にも案内し、十和田西高校、六戸高校の生徒にも参加していただき交流を深めている。学科の枠を超えた体験的学習の場及び交流の場としたい。

○プロジェクト発表会の開催

農業科においては「課題研究」、普通科においては「総合的な探究の時間」等で学習成果発表の場を設定することで互いの学習意欲の向上につなげることが考えられる。

○普通科と農業科の垣根のない進学指導

普通科及び農業科の進学指導のノウハウをそれぞれに活かし、今まで以上に多面的なアプローチをしながら、進路選択の幅を持たせることができる考える。